

平成29年10月18日
第2回高知市高齢者保健福祉
計画推進協議会
健康福祉部 高齢者支援課

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の 結果について

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

1 調査概要

- 対象者：65歳以上の市民で、下記の圏域区分で無作為に抽出した、要介護認定を受けていない方 3,720名

圏域	区域	大街	対象高齢者人口	高齢化率(%)	調査対象者数
東部	1	南街・北街・下知	5,421	24.0	400
	2	布師田・大津・三里・五台山・高須・介良	13,987	26.5	400
西部	1	旭街(鏡川以南・尾立・蓮台を除く)・初月(柴巻・円行寺を除く)	12,725	27.0	400
	2	朝倉(宗安寺・行川・針原・上里・領家・唐岩を除く)・鴨田・旭街(鏡川以南)	15,954	27.9	400
	3	初月(柴巻・円行寺)・旭街(尾立・蓮台)・朝倉(宗安寺・行川・針原・上里・領家・唐岩)・鏡	1,084	39.6	60
南部	1	潮江	8,114	28.6	400
	2	長浜・浦戸・御畳瀬	8,895	31.0	400
	3	春野	5,176	33.9	400
北部	1	上街・高知街・江の口・小高坂	10,793	30.6	400
	2	一宮(重倉・久礼野を除く)・秦(三谷・七ツ淵を除く)	10,672	25.6	400
	3	一宮(重倉・久礼野)・秦(三谷・七ツ淵)・土佐山	873	38.1	60

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

1 調査概要

・調査方法：郵送配布一郵送回収によるアンケート調査

・調査期間：平成29年6月1日～7月5日

・調査内容：国が定める必須項目を基本とした内容

①基本属性, ②家族や生活状況について, ③からだを動かすことについて,
④食えることについて, ⑤毎日の生活について, ⑥地域での活動について,
⑦たすけあいについて, ⑧健康について, ⑨在宅療養について

・回答者数：2,700人 有効回答数：2,470人 有効回答率：66.40%

圏域	東部1	東部2	西部1	西部2	西部3	南部1	南部2	南部3	北部1	北部2	北部3
有効回答数	249	289	294	254	38	245	263	271	261	272	34

・分析方法：見える化システムによる分析

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

2 回答者の属性

女性が約6割，前期高齢者が約6割を占めている。要支援度等区分別では一般高齢者が約9割を占めている。家族構成では1人暮らしが約2割，高齢夫婦2人暮らしが約4割であり，高齢者のみの世帯が約6割を占めている。

図1 性別

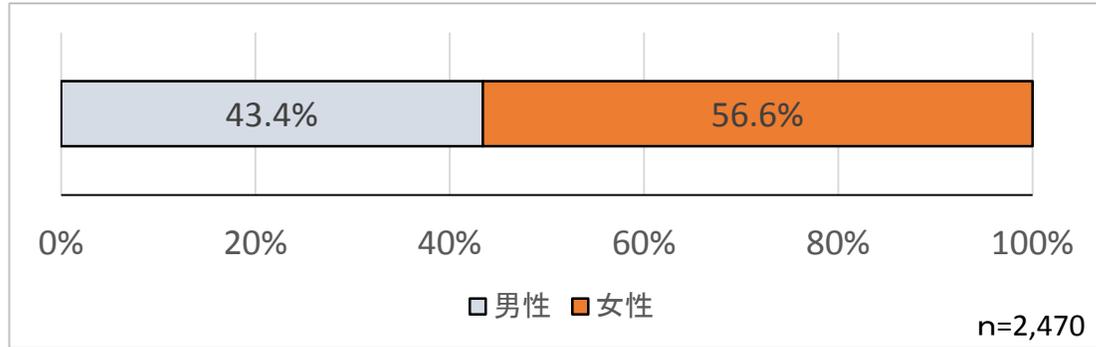


図2 年齢階級

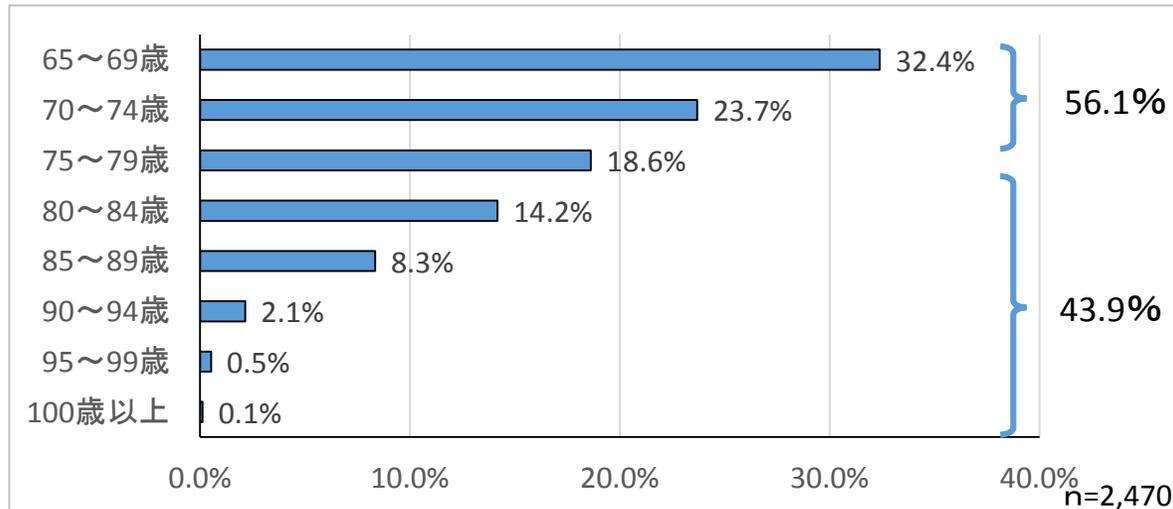


図3 要支援度等区分別

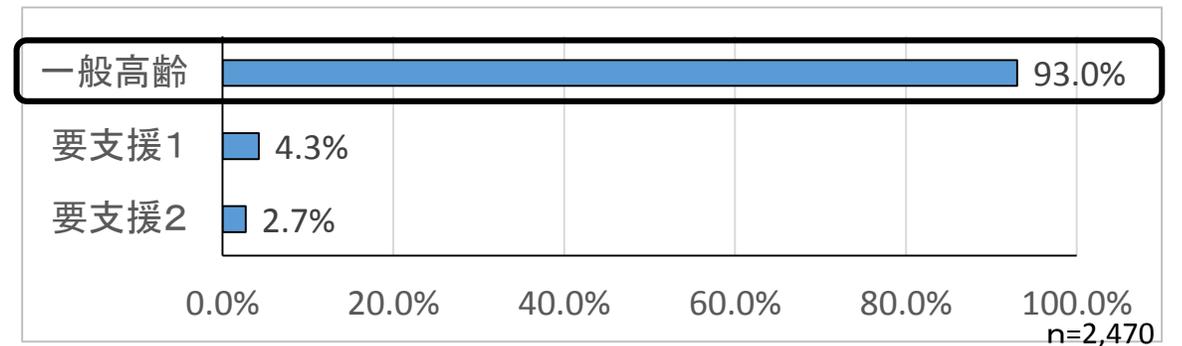
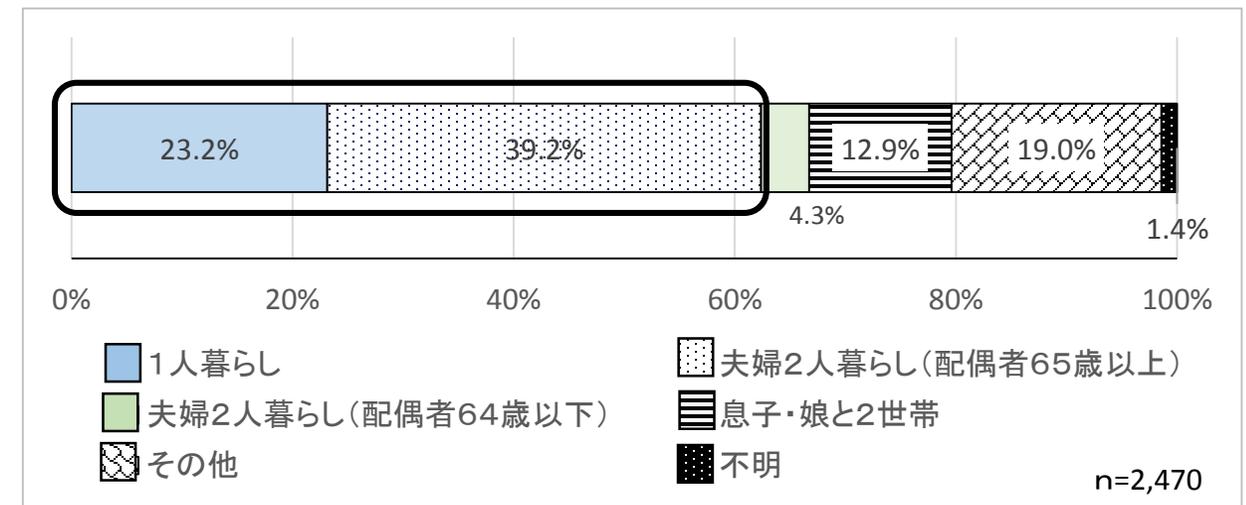


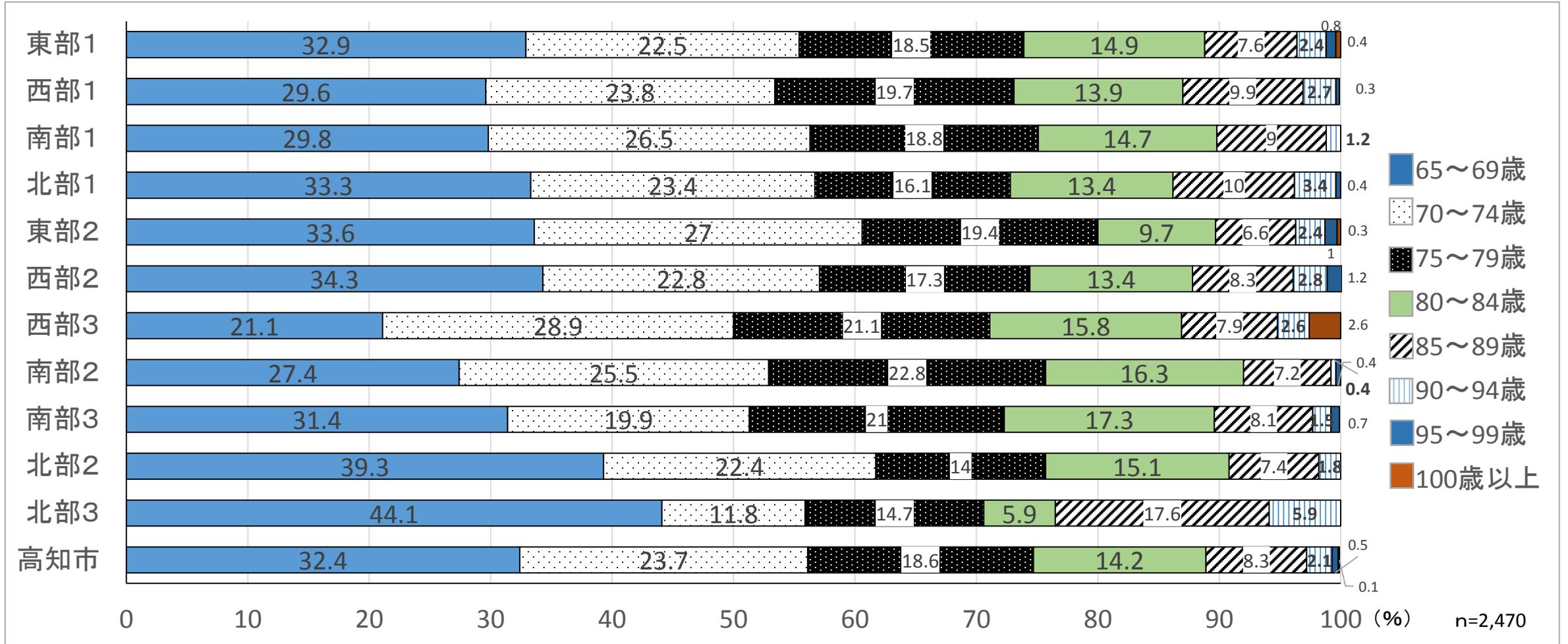
図4 家族構成



介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

2 回答者の属性(日常生活圏域別年齢階級)

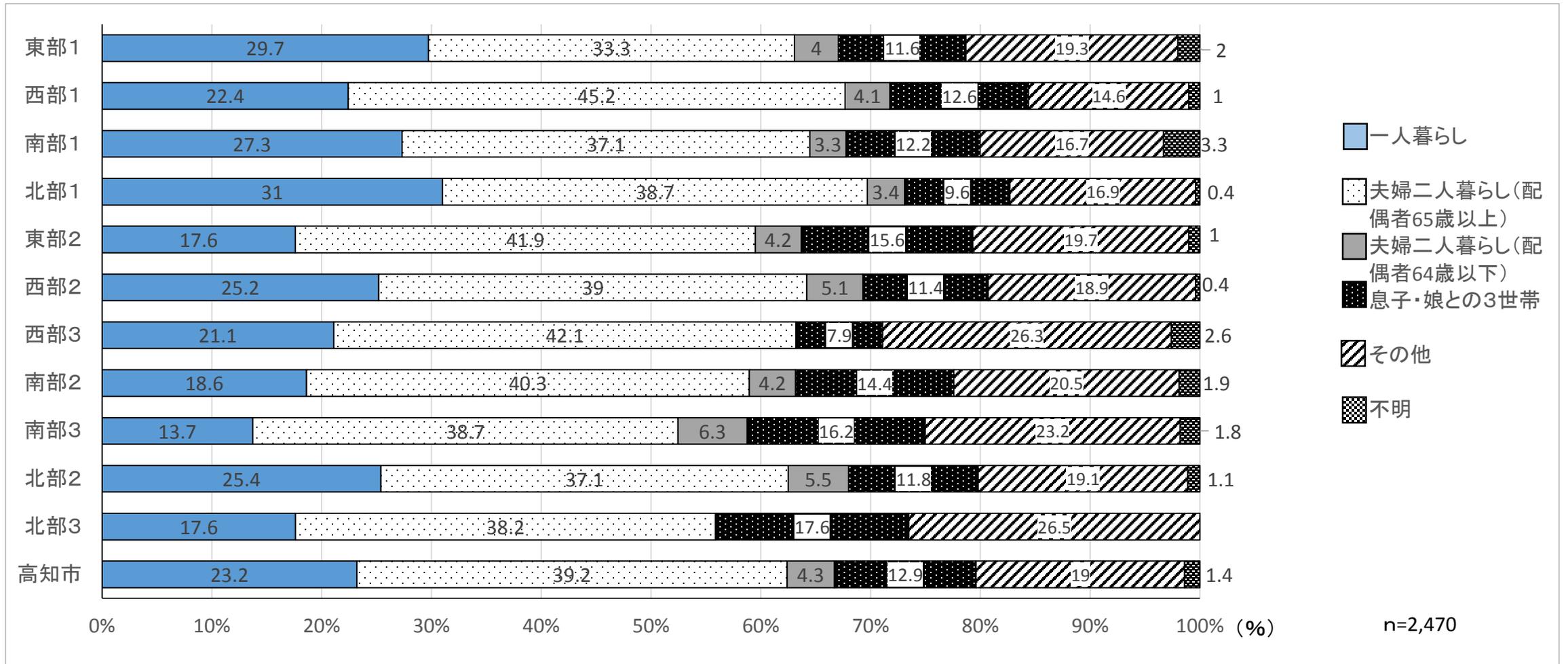
図5 年齢階級(日常生活圏域別)



介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

2 回答者の属性(日常生活圏域別家族構成)

図6 家族構成(日常生活圏域別)



介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...リスク割合について

うつリスクのある高齢者の割合が最も高く、次いで認知症リスクのある高齢者で、いずれも約4割強を占めている。栄養改善リスクのある高齢者は1割弱と最も低い。性別ではいずれのリスクにおいても女性の割合が高い。また、運動器機能リスクと閉じこもりリスク以外のリスクでは、年齢が低い程リスクのある高齢者数が多い。

図7 リスク割合(性別)

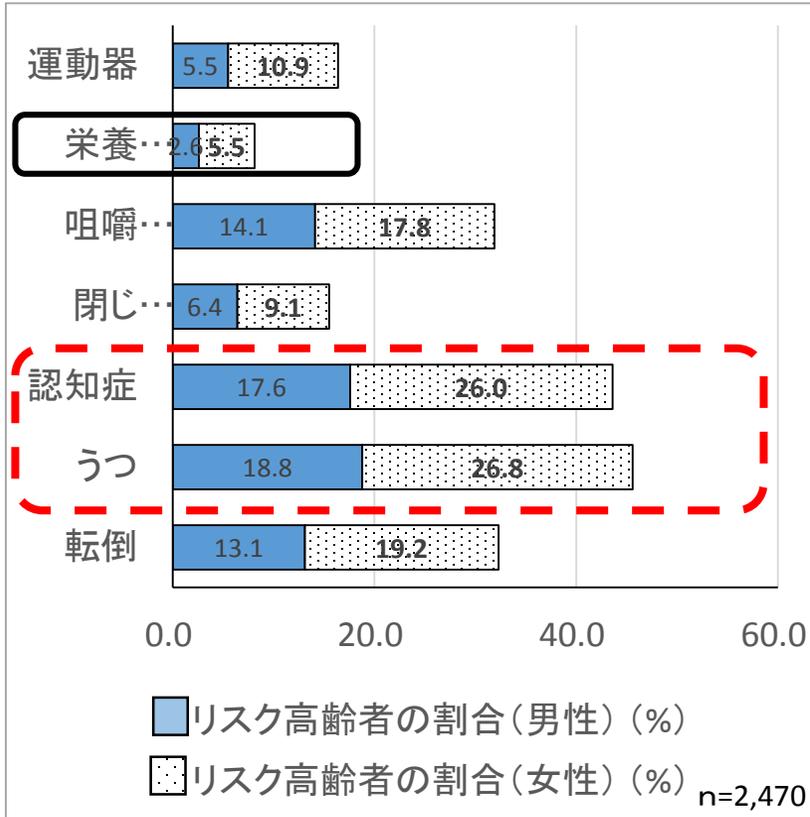
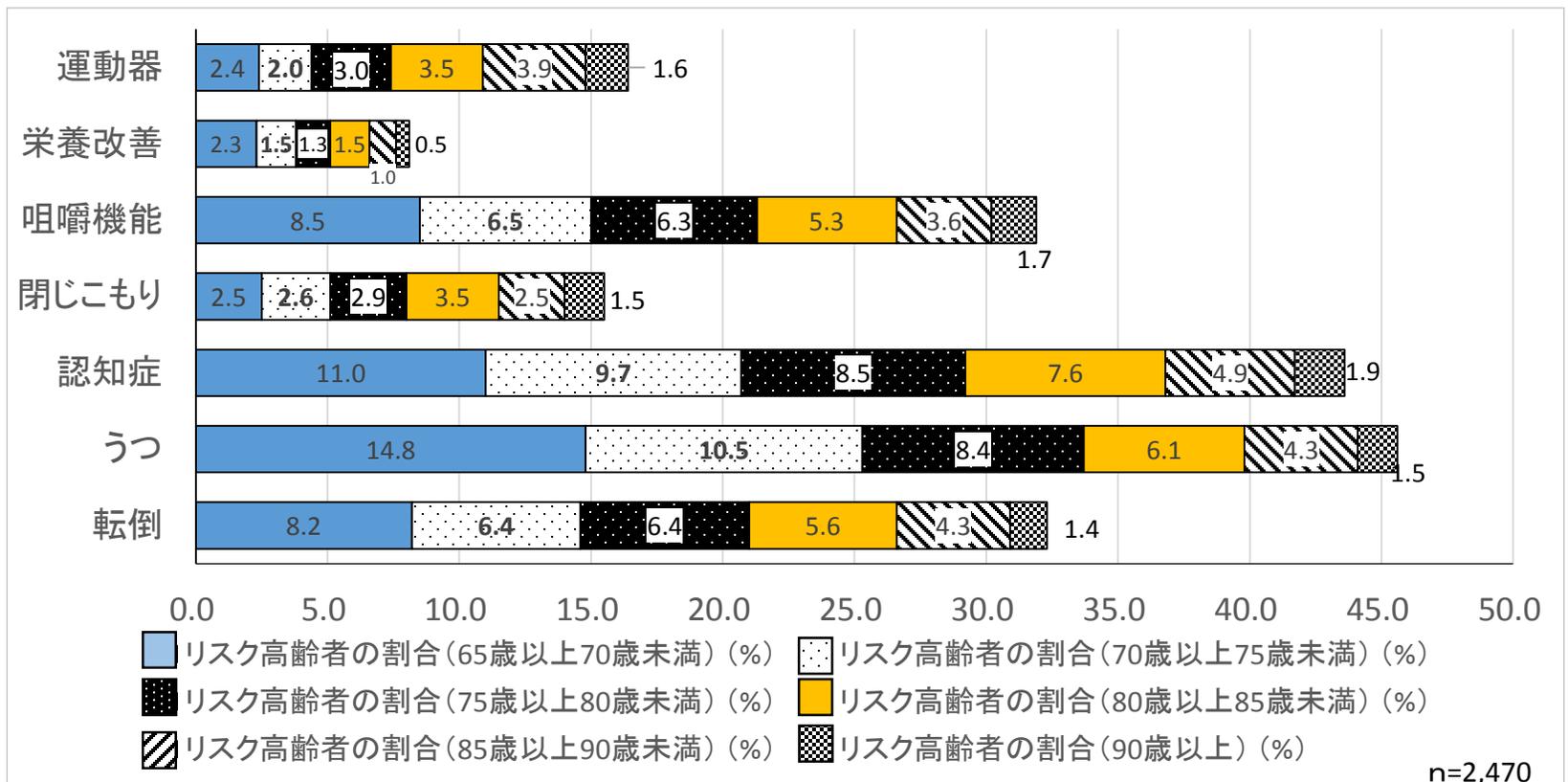


図8 リスク割合(年齢階級別)



介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...リスク割合(日常生活圏域別)について

運動器機能リスクのある高齢者と閉じこもりリスクのある高齢者の割合が共に西部3が最も高く、次いで北部3である。運動器機能リスクが最も低い圏域は北部1、閉じこもりリスクが最も低い圏域は西部1である。

図9 運動器機能リスク割合(日常生活圏域別)

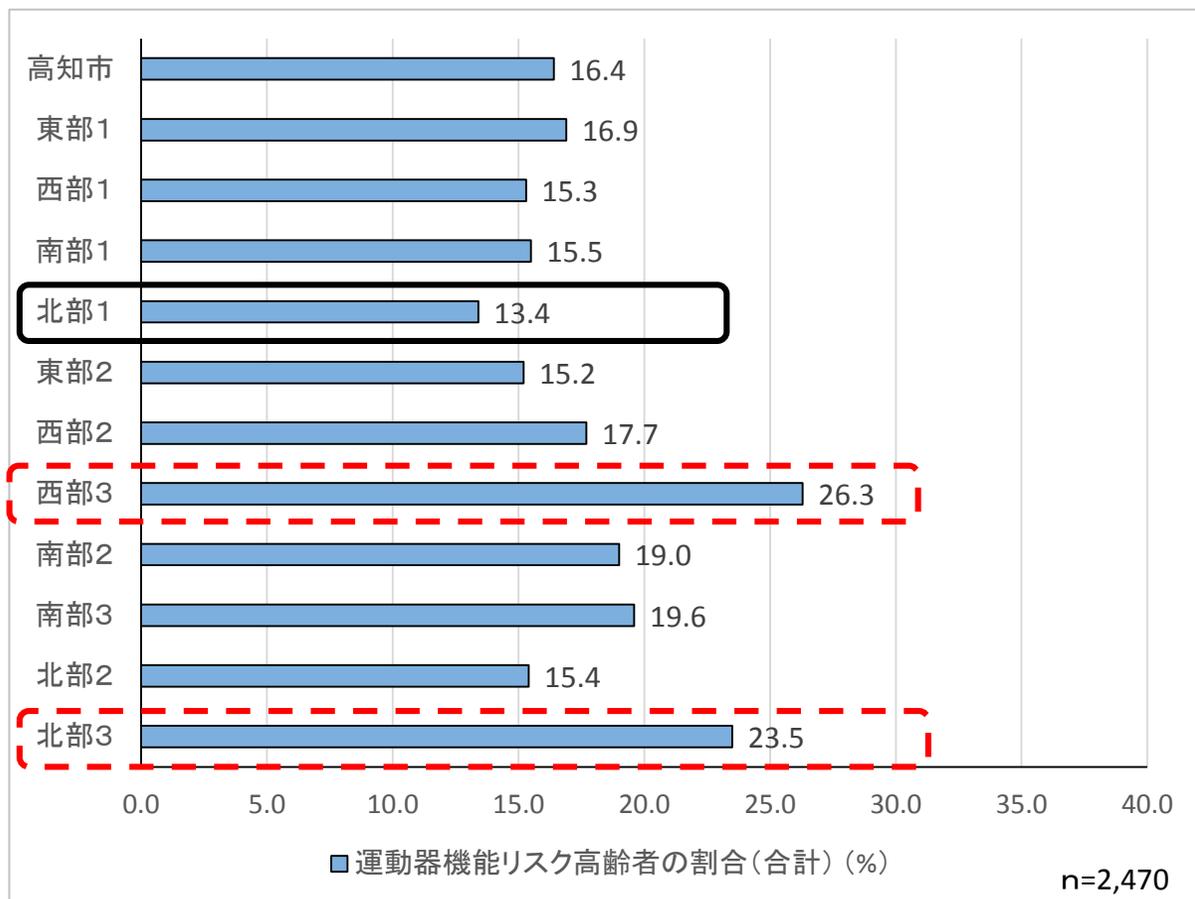
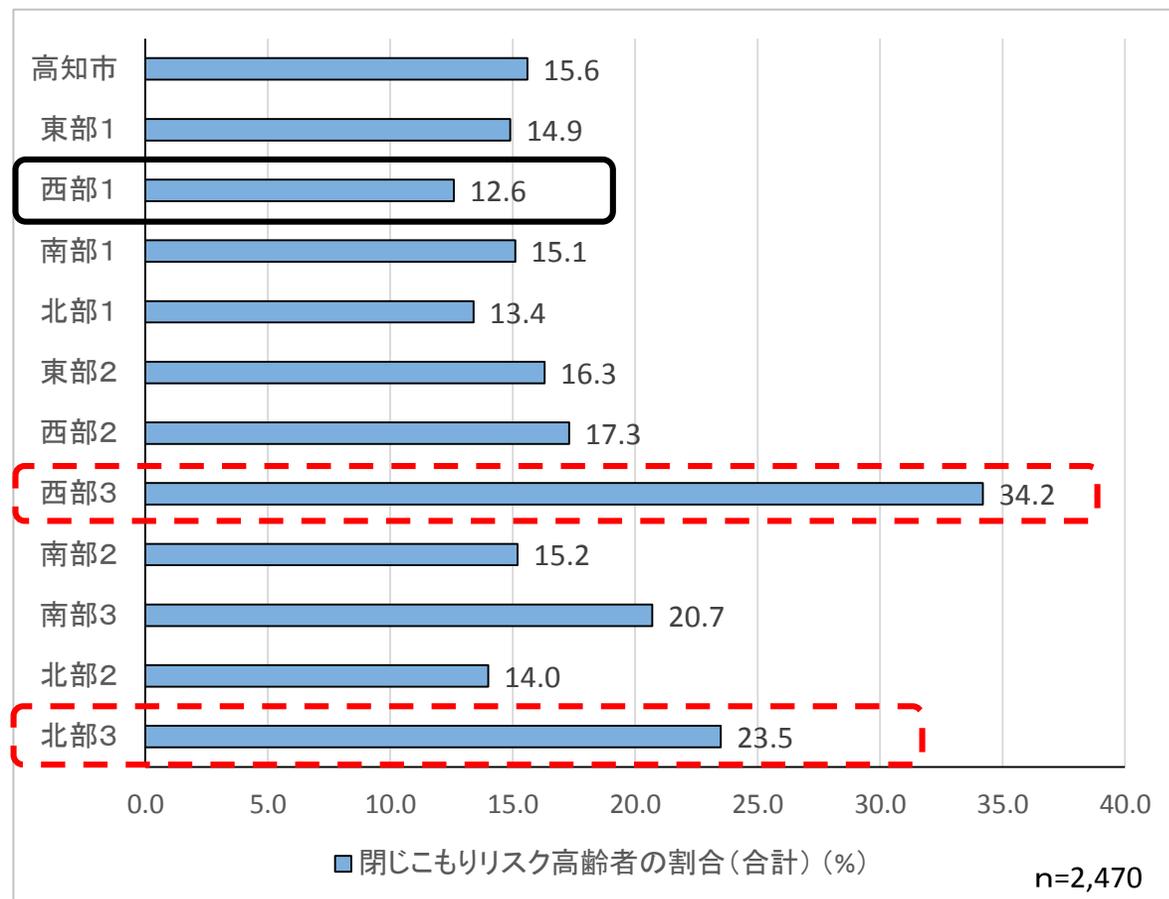


図10 閉じこもりリスク割合(日常生活圏域別)

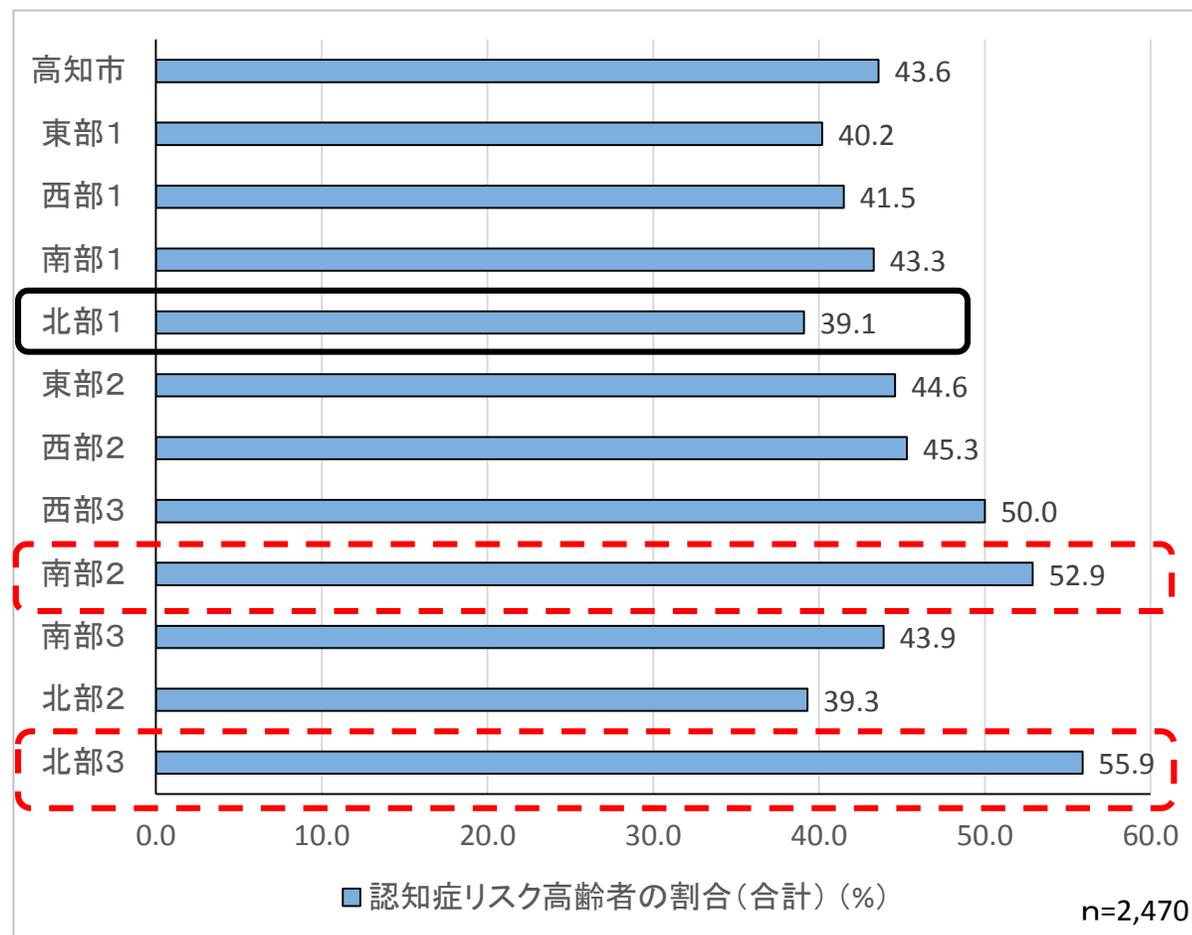


介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...リスク割合について

認知症リスクのある高齢者は北部3が最も高く、次いで南部2である。最も低い圏域は北部1である。

図11 認知症リスク割合(日常生活圏域別)

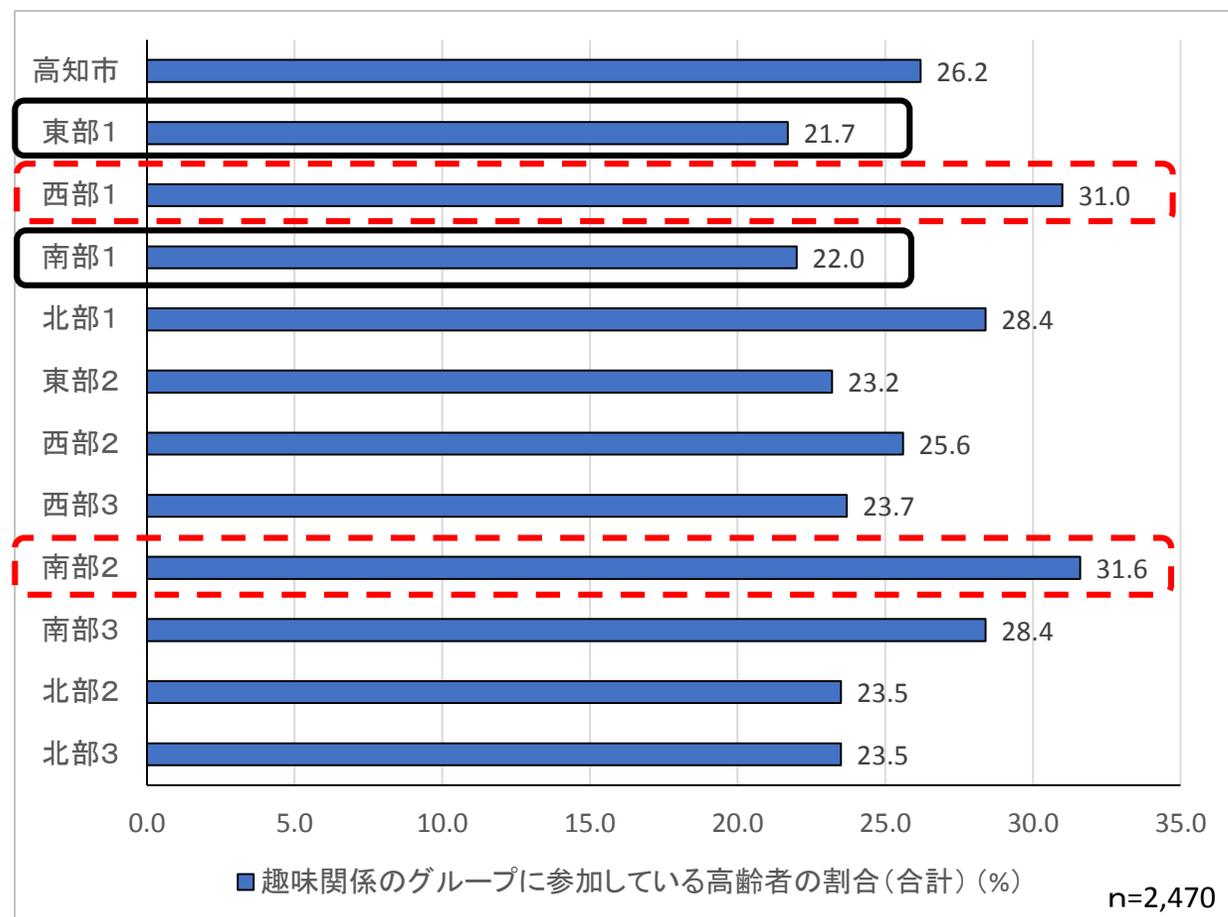


介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...趣味関係のグループへの参加について

趣味関係のグループに参加している高齢者は約26%で、日常生活圏域別では、南部2が約3割と最も高く、次いで西部1である。最も低い圏域は東部1、次いで南部1である。

図12 趣味関係のグループに参加している高齢者の割合（日常生活圏域別）

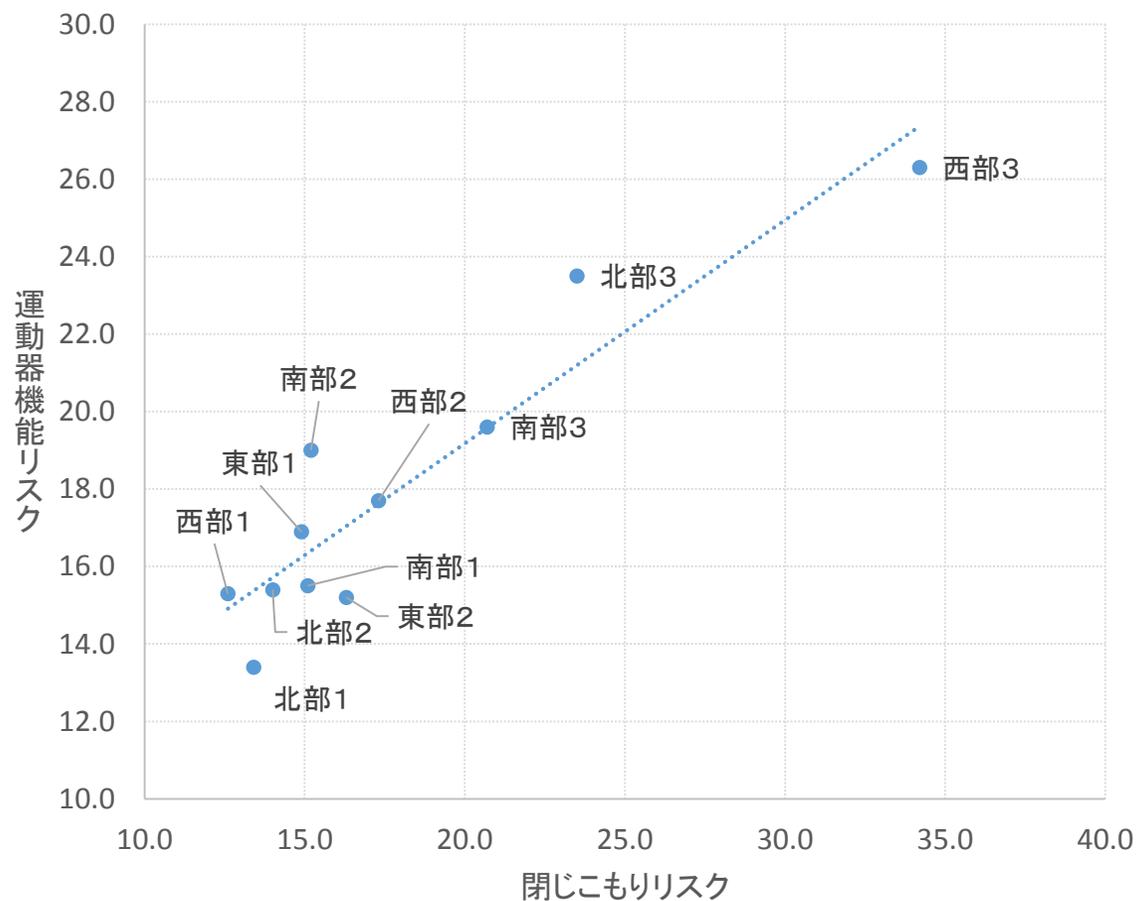


介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...相関関係について

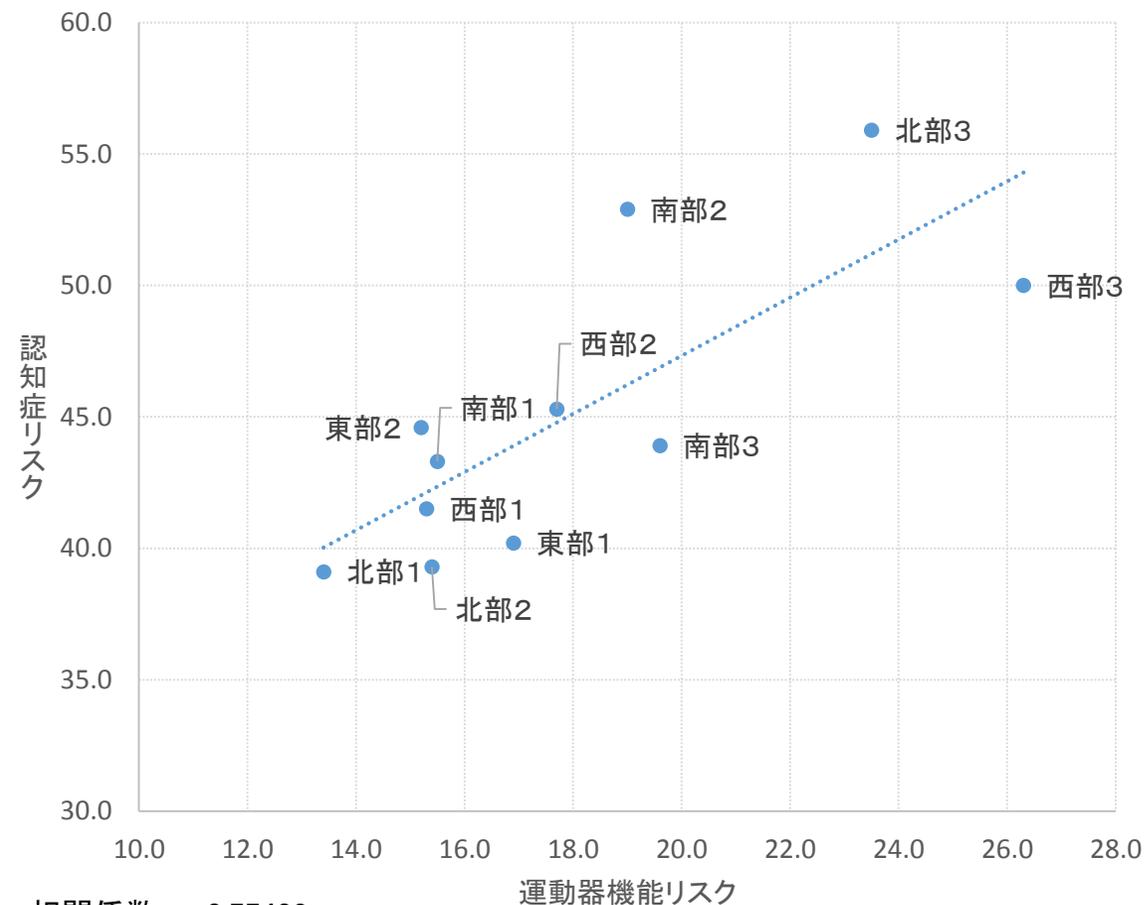
運動器機能リスクと閉じこもりリスクは強い相関があり、認知症リスクと運動器機能リスクも強い相関がある。

図13 運動器機能リスクと閉じこもりリスク



相関係数 $r=0.925929567116493$

図14 認知症リスクと運動器機能リスク

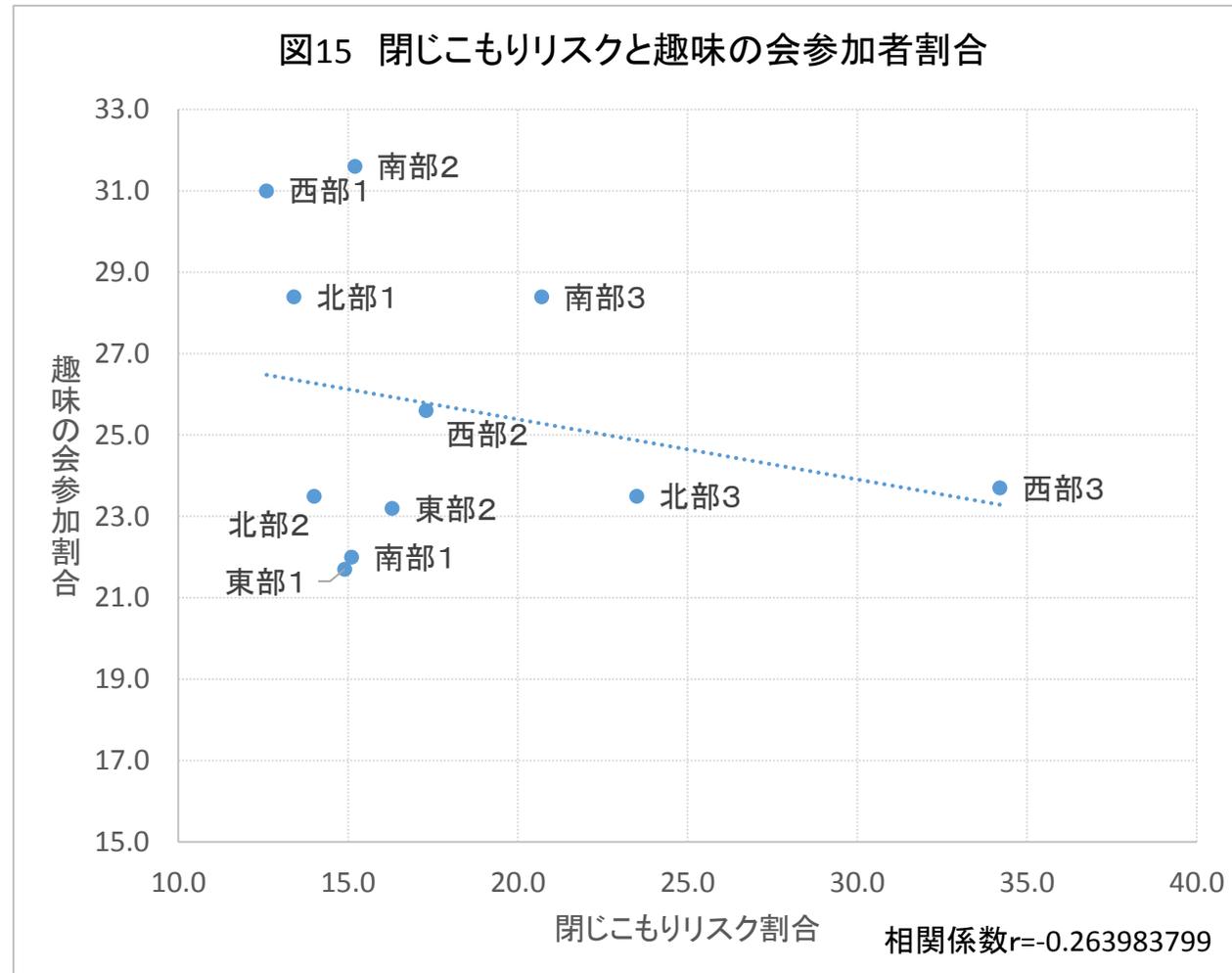


相関係数 $r=0.77408$

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...相関関係について

閉じこもりリスクと趣味の会の参加者割合には弱い相関がある。

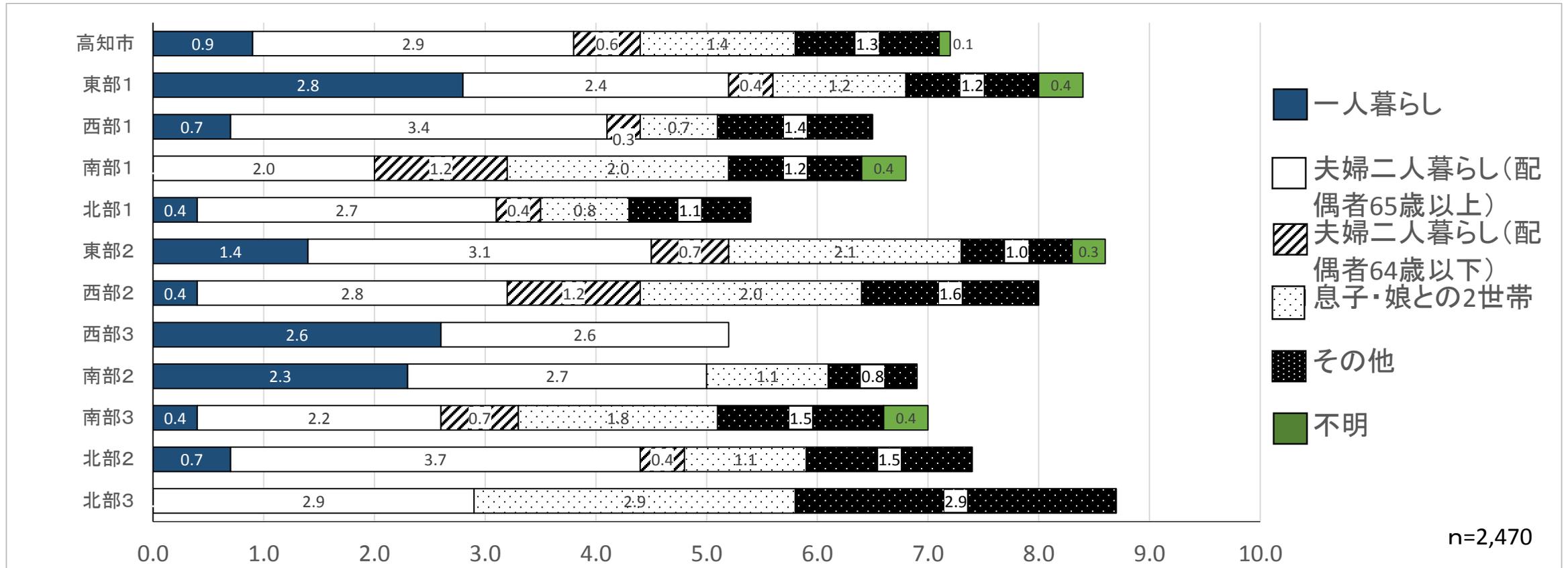


介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...配食ニーズありの高齢者の割合について

配食ニーズありの高齢者は約7%。家族構成別では、夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)世帯が約3%である。

図16 配食ニーズありの高齢者の割合について(日常生活圏域別)

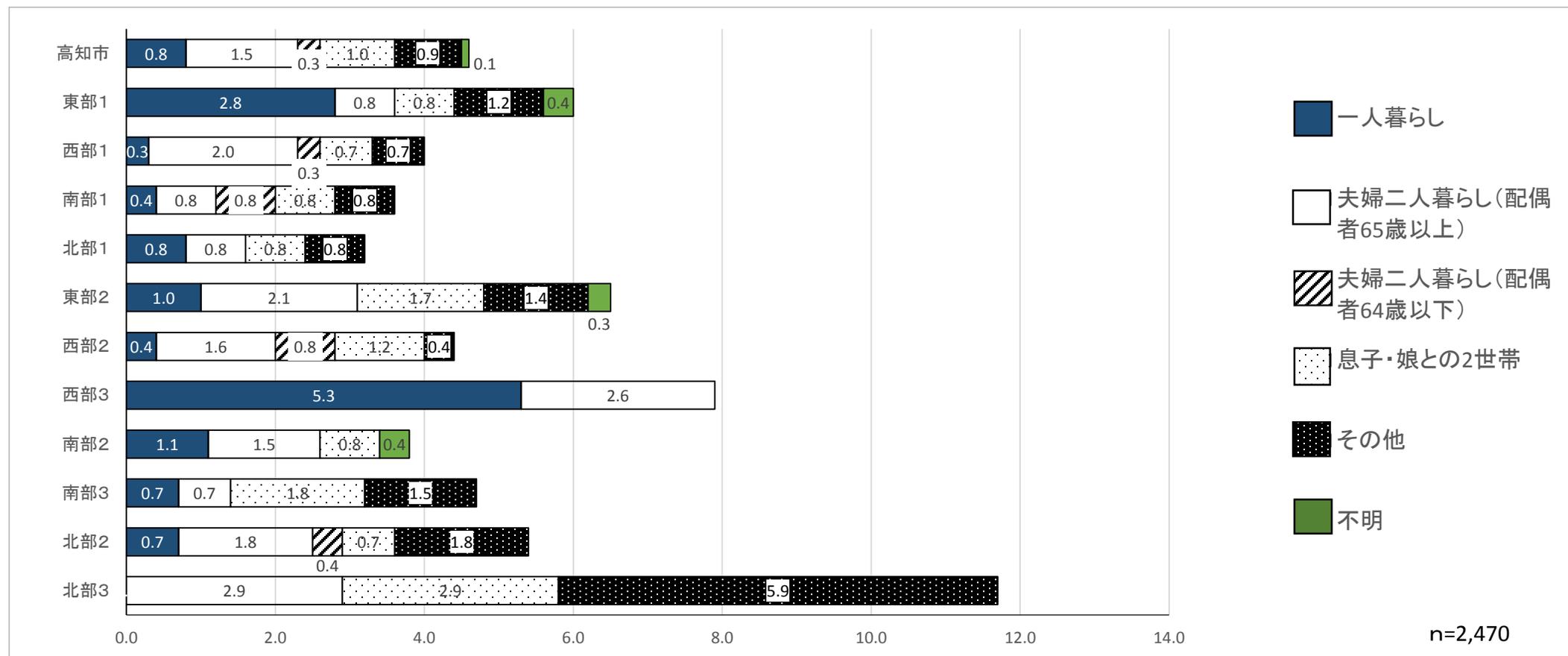


介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...買い物ニーズありの高齢者の割合について

買い物ニーズありの高齢者は約5%。家族構成別では、夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)世帯が1.5%である。

図17 買い物ニーズありの高齢者の割合について(日常生活圏域別)



介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...相関関係について

運動器機能リスクと買い物ニーズのある高齢者の割合には相関がある。また、認知症リスクと買い物ニーズのある高齢者の割合には相関がある。

図18 運動器機能リスク高齢者の割合と買い物ニーズのある高齢者の割合

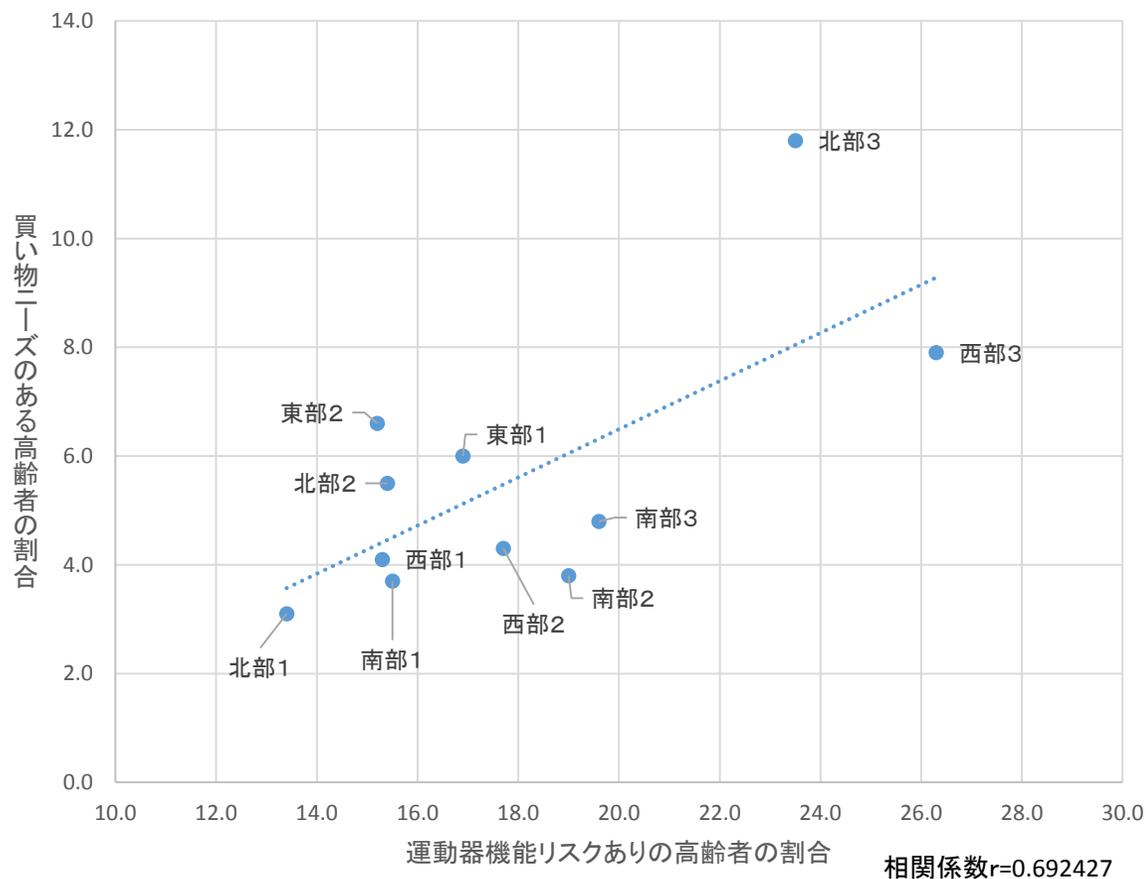
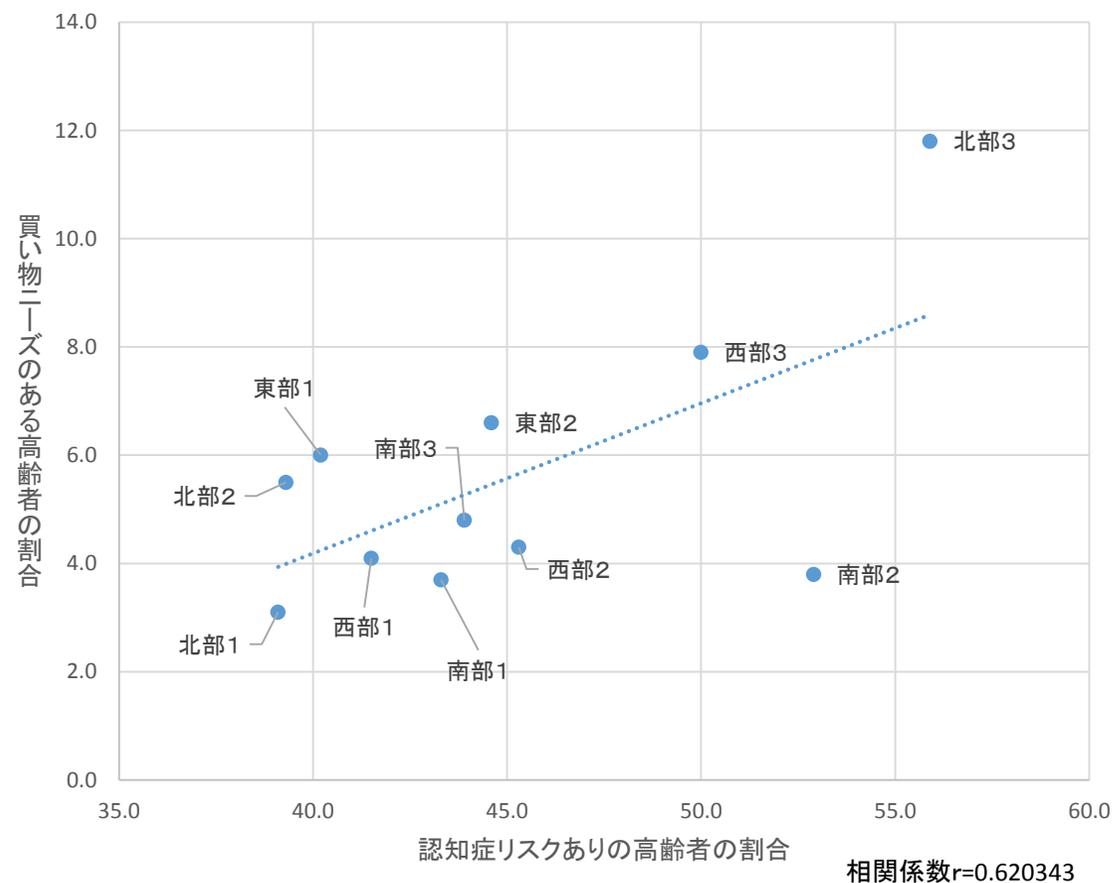


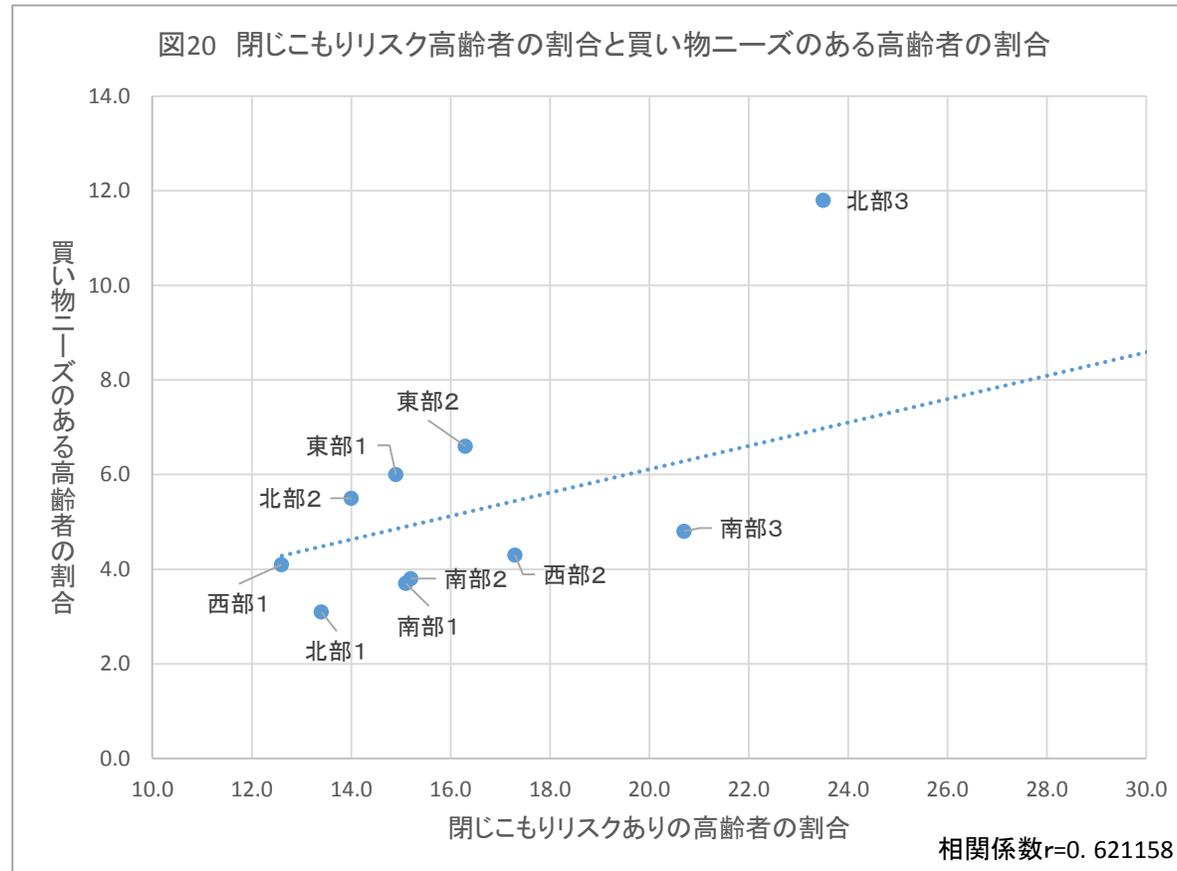
図19 認知症リスク高齢者の割合と買い物ニーズのある高齢者の割合



介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...相関関係について

閉じこもりリスクと買い物ニーズのある高齢者の割合には相関がある。

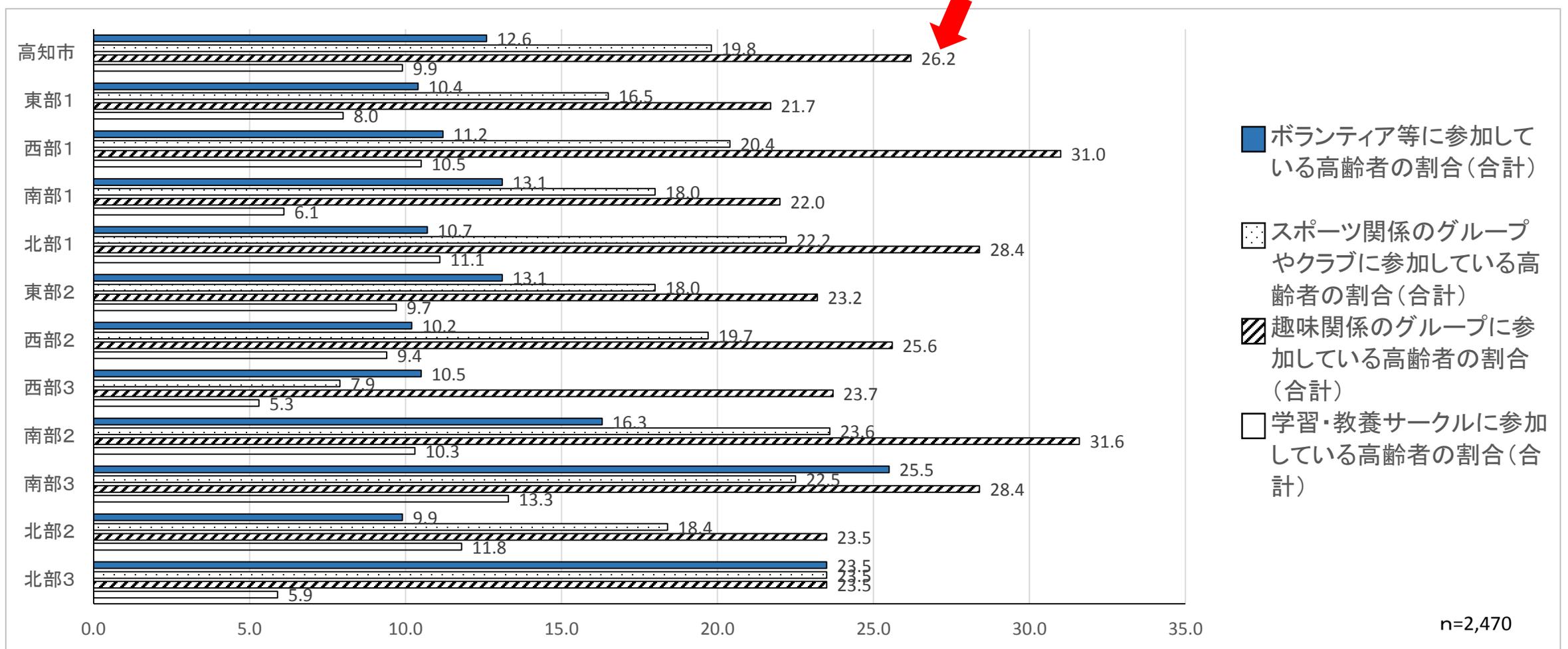


介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...ボランティア等への参加について

趣味関係のグループに参加している高齢者の割合が最も高く、学習・教養サークルに参加している高齢者の割合が最も低い。

図21 ボランティア等に参加している高齢者の割合(日常生活圏域別)

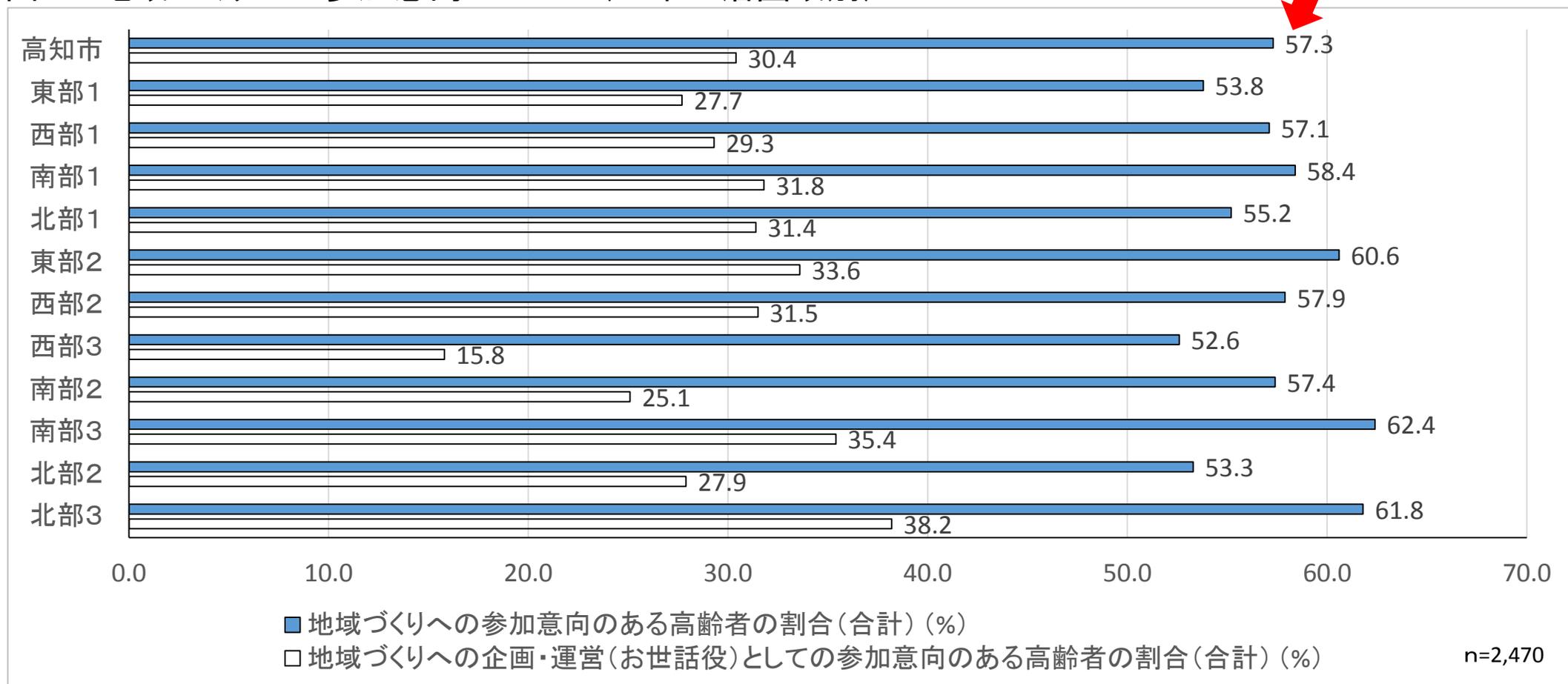


介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

3 調査結果から読み取れる特徴的な傾向...地域づくりへの参加意向について

地域づくりに参加してみたいと思う高齢者は約6割。地域づくり活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思う高齢者は約3割である。

図22 地域づくりへの参加意向について(日常生活圏域別)



介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

4 考察

・要介護度の悪化につながるリスクについては、うつリスクや認知症リスクが高い。認知症リスクのある高齢者の割合が高い地域ほど、運動器機能リスクも高まる傾向が強い。また、運動器機能リスクのある高齢者の割合が高い地域ほど、閉じこもりリスクも高まる傾向が強く、趣味の会に参加している高齢者の割合が高い地域ほど、閉じこもりリスクが低くなる傾向がみられる。

今後、運動器機能向上の取り組みを促進することが、認知症リスクや閉じこもりリスクへの取り組みにも有効ではないか。

また、閉じこもりが運動器機能リスクを高めることから、趣味の会等への参加を通じた社会参加の機会づくりも有効ではないか。

・配食ニーズありの高齢者の割合は約7%、買い物ニーズありの高齢者の割合は約5%であった。運動器機能リスクのある高齢者の割合が高い地域ほど、買い物ニーズのある高齢者の割合が高まる傾向がある。

また、認知症リスクのある高齢者の割合が高い地域ほど、買い物ニーズのある高齢者の割合が高まる傾向がある。

そして、閉じこもりリスクのある高齢者の割合が高い地域ほど、買い物ニーズのある高齢者の割合が高まる傾向がある。

今後、運動器機能向上や閉じこもり防止の取り組みを促進することで、自分自身にて買い物に行くことができる高齢者を増やすことができるのではないか。

・今回の調査では、ボランティア等への参加高齢者は約1割、趣味関係のグループへの参加高齢者は3割弱であった。一方、地域づくりに参加してみたいと思う高齢者は約6割、地域づくり活動に企画・運営として参加してみたいと思う高齢者は約3割であった。

今後、地域づくり活動に参加してみたいという思いが行動につながるような仕組みづくりが必要である。

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

5 調査の課題

- ・現状では他自治体との比較ができない。

本調査は、国の定める項目に従って実施することで、他自治体との比較ができることもメリットであったが、見える化システム上その機能が実装されておらず、本調査での比較検証ができなかった。

- ・要介護度につながるリスクについて経年変化での検証ができない。

本調査は、要介護度につながるリスクとして初めて実施された調査であるため、前回の調査内容とは異なっている。そのため、現時点で要介護度につながるリスクを経年変化での検証ができない。今後、同項目にて調査を実施することで、当該地域でのリスク割合の変化をみることが可能になる。